

## —水産庁—

## 漁村の活性化に向けて～水産土木技官として～

## 1. はじめに

2011年3月。大学3年生で土木工学を専攻し、研究室選びに悩んでいた時、東日本大震災が発生。被災した漁村を目の当たりにし、津波の防災を研究テーマに選んだ。また、私の出身地は兵庫県姫路市の網干という港町。隣町には室津という昔ながらの漁村があり、漁村の活性化は身近に感じていた。少子高齢化が進み、津波・高潮による災害リスクが高まる中、日本全国の漁村を元気にしたいという思いから、2014年4月、土木技官として水産庁に入庁した。



室津漁港（兵庫県たつの市）



鵜来島（高知県）の秋祭り。20数人の島に数百人が集う。

漁村の防災を加速化するための事業制度の拡充や、4年に1度の海岸4省庁幹事として予算編成と事業企画に従事。係長の3年間では、自ら政策立案に携わる傍ら、人に作業をお願いする事が非常に多く、折衝・調整能力が試された。また、国全体の政策と現場のニーズをいかに合わせるか、その調整役として常に悩みながら最適解を模索した。

8年目となった4月より、計画課利用調整班に所属。官民連携による漁港の利活用促進や、漁港機能増進事業の実施計画を担当している。

## 2. 業務について

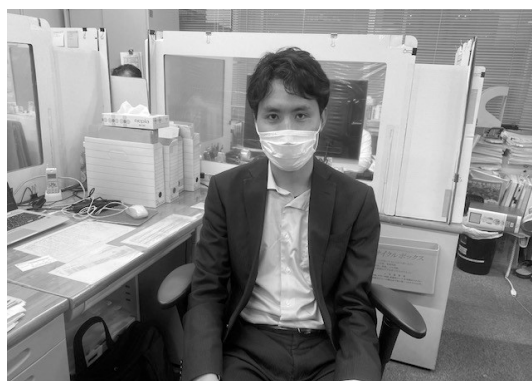
入庁後2年間は漁港漁場整備部で、施工基準の改正や、全国の漁港漁場を整備する「水産基盤整備事業」の予算編成に携わった。

大きな転機となったのが3年目。国土交通省四国地方整備局に出向し、四国の重要港湾の利活用促進に向けた企画立案に従事。特にフェリー・RORO船を活用した物流効率化、高知港を活用した農林水産物輸出、そして利用しやすい坂出港の振興に向けた「坂出ニューポートプラン」の検討を重点的に担い、港湾利用企業へニーズ調査や統計分析、協議会の運営に自ら取り組んだ。仕事以外では64の有人離島を巡ったり、自転車ですべての四国一周、愛媛の離島でトライアスロンに出場し、四国の観光名所を渡り尽くした。

5年目に係長で水産庁計画課に帰任。再び水産基盤整備事業の企画に携わり、水産改革に即した事業制度改正や、国直轄漁港整備事業の立上げに貢献した。7年目に防災漁村課に異動し、海岸事業を担当。

## 3. 現在の想いと今後のビジョン

私の一番の財産は、仕事を通じて全国の様々な人達に巡り会えた事。防波堤などの「施設」を整備する仕事だが、結局は「人」との関わりが全て。漁港・港湾・海岸整備の事業企画に携わったが、今後は農山漁村全体や離島の振興などにも従事したい。農山漁村や地方からニッポンを盛り上げていきたい。そんな想いを秘め、今後も邁進する所存である。



水産庁 漁港漁場整備部 計画課 北川 俊一郎

きたがわ しゅんいちろう